

～ノーベル経済学賞で話題の「ジェンダー」「経済」がテーマ～
シンポジウム「キャリア形成と家族形成を考える」を開催

九州大学人社系協働研究・教育コモンズは、12月18日に第24弾企画シンポジウム「キャリア形成と家族形成を考える」を開催いたします。

2023年のノーベル経済学賞は、ハーバード大学のクラウディア・ゴールドフィン教授が受賞しました。ゴールドフィン教授は、男女間格差や女性の就業パターンが、過去200年間でどのように変化してきたのか、その原因は何なのかを明らかにしました。男女賃金格差の背景には様々な要因があると考えられますが、例えば「女性は結婚・出産したら、会社を辞める」と予測した会社が、女性の昇進や賃上げに消極的になることが一つの原因かもしれません。すると、賃金が上がらないことでますます女性の離職が促進され、予測が現実のものとなってしまいます。このような現象は、人々の合理的な予測と行動によって起こるため、市場原理によって自然に解決されることはありません。

以上のような問題に取り組むには、労働市場の分析だけでなく、法・制度をどのようにデザインするか、人々の価値観の在り方をどうしたら変えられるか、といった多角的な視点からの分析が必要であり、学際的な研究体制が不可欠です。こうした問題意識の下、九州大学人社系協働研究・教育コモンズでは「ジェンダー・キャリア・家族形成」というテーマでシンポジウムを開催することにいたしました。是非とも、皆さまの積極的な参加をお待ちしています。

講演者からひとこと：

キャリア形成と家族形成に関する研究成果を皆様にわかりやすくお伝えします。文系4学部の研究者による様々な視点からの討論を通して、「ジェンダー・キャリア・家族形成」について理解が深まる時間となりましたら幸いです。皆様のご来場をお待ちいたしております。



◀ 室賀 貴穂
准教授

労働参加・高齢化・教育・結婚等の私たちの生活に密接に関わるテーマについて労働経済学の理論と実証の側面から研究を進めている。

【実施概要】

- [日 時] 令和5年12月18日（月）
15:00～17:30
[会 場] 九州大学伊都キャンパス E-C-203
(Zoomによるオンライン参加も可能)
[参加費] 無料（要事前登録）
[詳 細] 以下のQRコードもしくは下記特設サイトよりご確認ください。参加登録フォームも掲載致しております。



(特設サイト)
https://commons.kyushu-u.ac.jp/collaborative/events/event_24.html

※取材をご希望の皆様には、下記問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

キャリア形成と 家族形成を考える

■ 講演者

室賀 貴穂 むろがきほ
九州大学 大学院経済学研究院 准教授

東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。九州大学大学院経済学研究院講師を経て、現職。労働参加・高齢化・教育・結婚等の私たちの生活に密接に関わるテーマについて労働経済学の理論と実証の側面から研究を進めている。近著に Muroga (2020), Work or Housework? Mincer's Hypothesis and the Labor Supply Elasticity of Married Women in Japan, *Japanese Economic Review* や Crabtree and Muroga (2021), Measuring Gender Role Attitudes in Japan, *Socius* がある。

12/18 2023 15:00-17:30
[月] 参加費無料

[会場] 九州大学伊都キャンパス E-C-203
会場参加またはオンライン会議形式 (Zoom)

参加申込〈要事前登録〉

会場参加またはオンライン (Zoom) で開催します。
下記サイトへアクセスの上、事前登録をお願いします。
折り返しアドレスとパスワードをご連絡します。
commons.kyushu-u.ac.jp/collaborative/events/event_24.html



■ 討論者 (五十音順)

野々村 淑子
九州大学 人間環境学研究院 教授

山下 亜紀子
九州大学 人間環境学研究院 准教授

山下 昇
九州大学 法学研究院 教授

■ 司会
菅 史彦
九州大学経済学研究院 准教授

■ スケジュール

15:00-15:10
開会挨拶・趣旨説明
15:10-15:40
講演: 室賀貴穂
15:40-15:50
休憩
15:50-16:40
討論者による報告と
リプライ (15分×3)
16:40-17:30
総合討論

2023年のノーベル経済学賞は、ハーバード大学のクラウディア・ゴールドティン教授が受賞しました。ゴールドティン教授は、男女間格差や女性の就業パターンが、過去200年間でどのように変化してきたのか、その原因は何なのかを明らかにしました。

男女賃金格差の背景には様々な要因があると考えられますが、例えば「女性は結婚・出産したら、会社を辞める」と予測した会社が、女性の昇進や賃上げに消極的になることが一つの原因かもしれません。すると、賃金が上がらないことでますます女性の離職が促進され、予測が現実のものとなってしまいます。このような現象は、人々の合理的な予測と行動によって起こるため、市場原理によって自然に解決されることはありません。また、離職した母親が

家庭にいる環境で育った男性は、やがて自分の妻にも家庭に留まって家事・育児に専念することを望むようになり、世代を超えて女性の社会進出を阻む要因になってしまうかもしれません。

このような問題に取り組むには、労働市場の分析だけでなく、法・制度をどのようにデザインするか、人々の価値観の在り方をどうしたら変えられるか、といった多角的な視点からの分析が必要であり、学際的な研究体制が不可欠です。こうした問題意識の下、九州大学人社系協働研究・教育コモンズでは「ジェンダー・キャリア・家族形成」というテーマでシンポジウムを開催することにいたしました。是非とも、皆さまの積極的な参加をお待ちしています。